

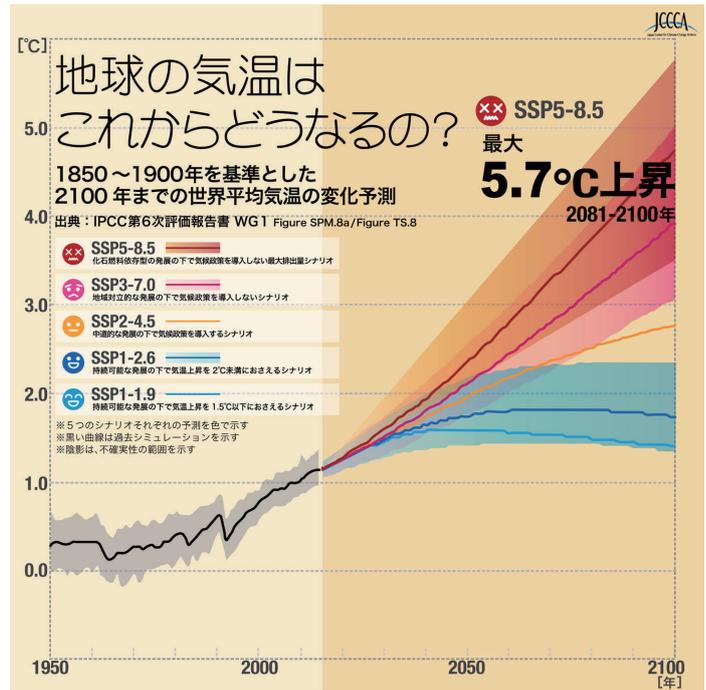
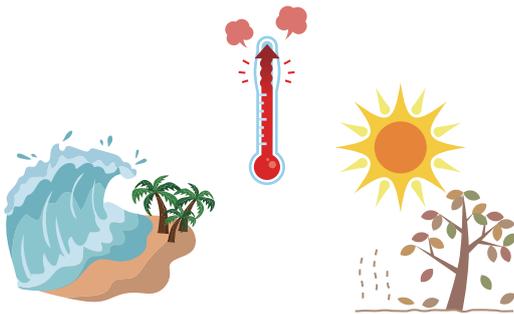


上島町 地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)

概要版

地球温暖化(気候変動)の影響

今後、気温がさらに上昇すると予測されており、今世紀末までに 3.3～5.7℃の上昇が予測されています。地球温暖化によって、農作物の品質低下、洪水の増加、熱中症患者数の増加など、私たちの生活が脅かされる可能性が指摘されています。



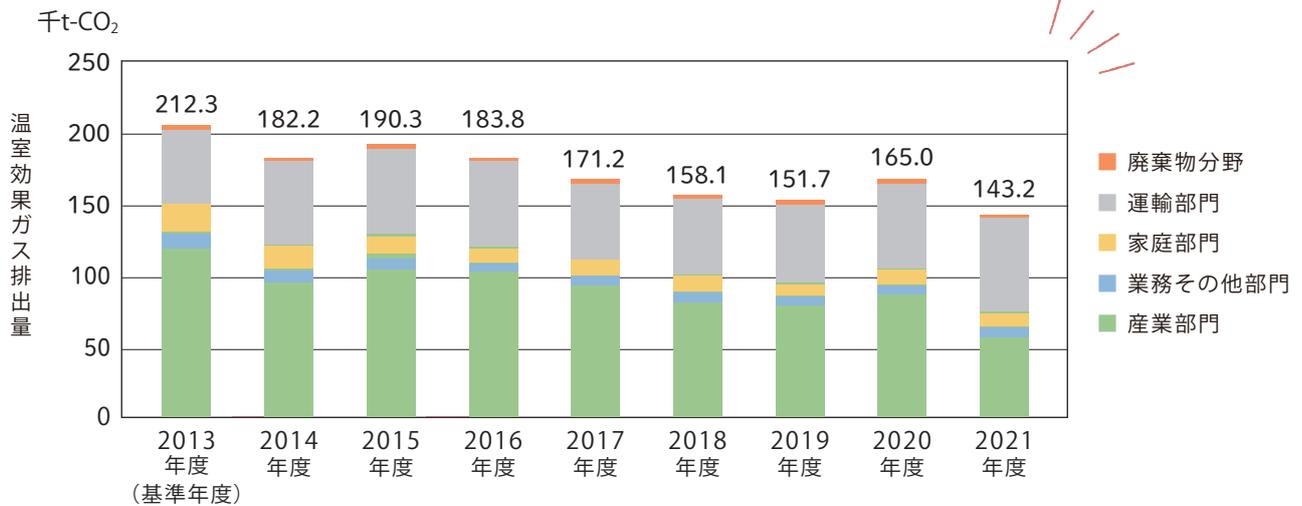
基本的事項

本計画の基本的事項は以下のとおりです。

	取組内容
計画の目的	「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、町内全域の自然的・社会的条件に応じた温室効果ガス排出抑制等に向けた計画とし、2050年カーボンニュートラルを目指した具体的な計画。
計画の位置づけ	「上島町第2次総合計画後期基本計画」に基づいた計画であり、国や愛媛県の計画及び本町の各種関連計画と整合・連携を図り、総合的に進めていくもの。
計画期間と基準年度	計画期間：2025年度～2030年度 長期目標年度：2050年度 基準年度：2013年度
対象範囲と対象ガス	対象範囲：町内全域（町民・事業者・町） 対象ガス：二酸化炭素（CO ₂ ）

温室効果ガス排出量の推移

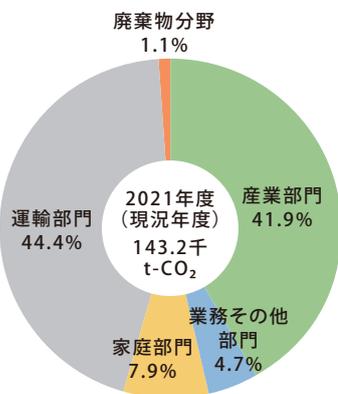
本町の温室効果ガス排出量は、排出量が推計できる 2021（令和 3）年度は 143.2 千 t-CO₂ であり、2013（平成 25）年度の 212.3 千 t-CO₂ と比べて 32.5%減少しています。



部門・分野別

温室効果ガス排出量の割合

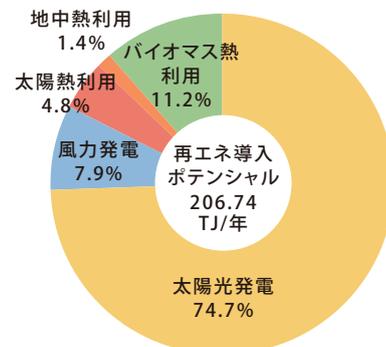
2021 年度の部門・分野別温室効果ガス排出量の割合は、運輸部門が 44.4%、産業部門が 41.9%、家庭部門が 7.9%、業務その他部門が 4.7%、廃棄物分野が 1.1%となっています。



再生可能エネルギー

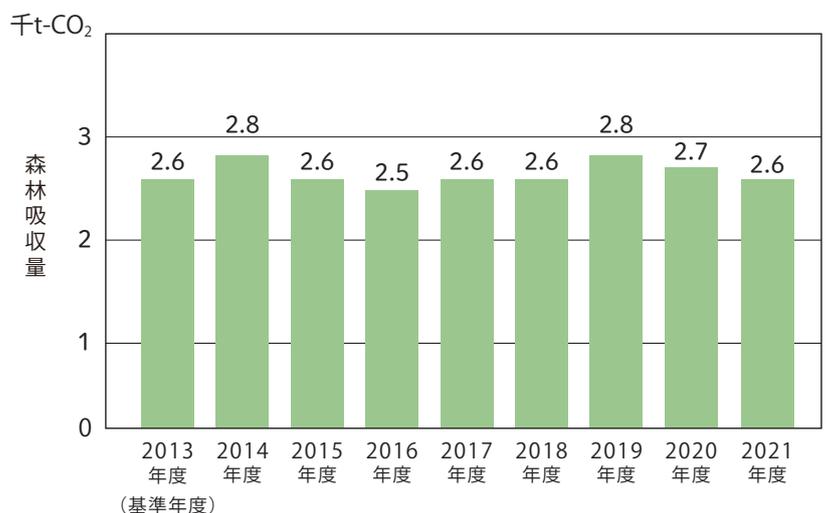
導入ポテンシャル

本町では、年間約 207TJ の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル量が推計されます。全体の約75%を占める太陽光発電が、本町における主力の再生可能エネルギーといえます。



森林吸収量

森林（植物）は成長する過程で CO₂ を吸収することから、地球温暖化対策の手法の一つとして注目されています。本町の森林による温室効果ガス吸収量は、2013年度、2021年度ともに 2.6 千 t-CO₂ となっています。この吸収量は温室効果ガス総排出量の約 1.8% に値する結果となります。



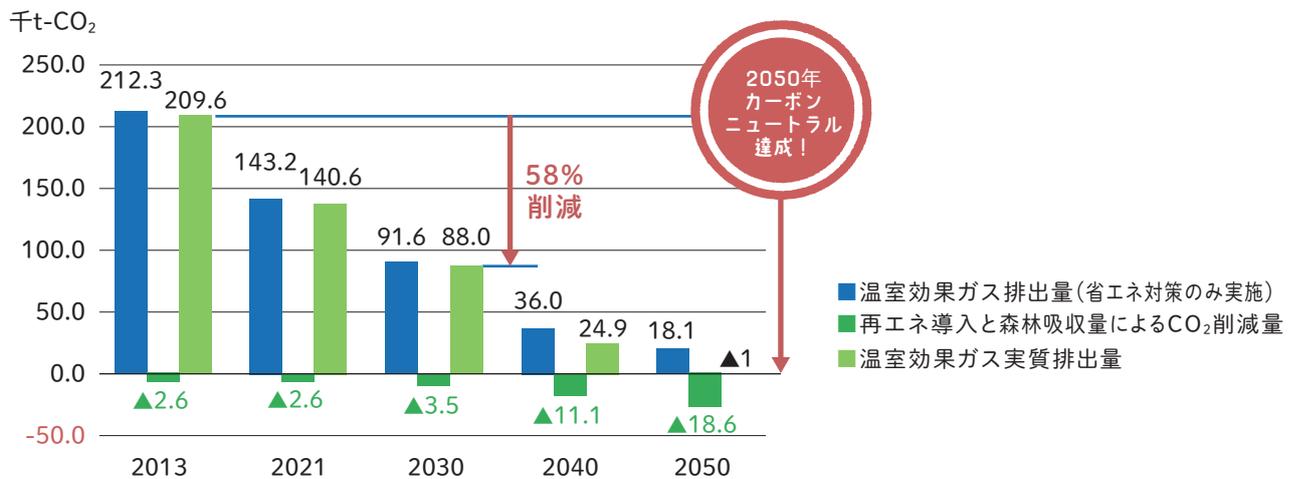
温室効果ガス削減目標

2050年カーボンニュートラル達成を目指し
2030年度までに温室効果ガスの排出量を
58%削減します。

※2013年度比

本町の2030年度における温室効果ガス削減目標は、2013年度における温室効果ガス実質排出量である209.6千t-CO₂に対して、88千t-CO₂(58.0%削減)をめざします。

また、2050年度にはカーボンニュートラル(二酸化炭素排出実質ゼロ)を達成することを目標とします。



再生可能エネルギー導入目標

2030年度には2021年度導入量の**1.3倍**導入
2050年度には2021年度導入量の**1.8倍**導入

※導入量は累計

本町の再生可能エネルギーについては、再生可能エネルギー導入ポテンシャルや地域特性により、太陽光発電設備等の導入目標を設定します。

2021年度における再生可能エネルギー導入量(累計)20TJに対し、2030年度には1.3倍の25TJ、2050年度には1.8倍の35TJの導入量を目指します。また、エネルギー消費量に対する再生可能エネルギー導入量(再エネ比率)は、2030年度には1.3%、2050年度には2.5%となる見込みです。



上島町 2050年の将来像

2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、町民、事業者、町、多様なステークホルダーとともに連携・協力しながら取り組む必要があります。また、脱炭素社会の実現と地域課題の同時解決を目指し、環境分野だけでなく、環境、経済、社会分野(SDGsの概念)での脱炭素化を進めていきます。2050年カーボンニュートラルが達成した場合の上島町は、以下のようなイメージとなっています。

住宅や事業所の建物は、省エネ性能の高いZEH・ZEB化^{※1}が標準化され、健康に豊かに暮らしています。

島まるごとがエネルギーを地産地消しています。

エネルギーの地産地消



町民や事業者は「デコ活^{※2}」の取組が定着し、脱炭素型ライフスタイルやビジネススタイルの暮らしをしています。

デコ活



脱炭素につながる新しい豊かな暮らし

住宅や事業所の屋根には景観に配慮した太陽光パネルが設置され、再生エネルギーが使われています。

省エネ省CO₂船舶

生名フェリー

ZEH

EV

自転車

ZEB

EV

買い物や通勤、レジャーにはEV^{※3}で出かけ必要に応じて電力を使用機器に供給しています。

CO₂

EVあいのり

ブルーカーボン

ブルーカーボン^{※4}が拡大され、藻場が島全体に形成されることにより、海洋生態系が豊富になり、漁業が活性化しています。

省エネ省CO₂船舶

ニューおしま

食の地産地消



地元の食は地元の食材が利用され、地産地消が構築されています。

町有バスはEV化され、「EVあいのり」として利用し、お出かけしています。

(※1) 快適な室内環境を実現しながら省エネ性能の向上と再生可能エネルギーの活用により、建物で消費する年間のエネルギー収支をゼロにすることをめざした住宅(ZEH)・建物(ZEB)です。

(※2) 政府が推進する「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」で、二酸化炭素を減らす脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を組み合わせた「デコ」な活動・生活を意味する新しい言葉です。

(※3) ガソリンエンジンを搭載せず電気駆動のモーターで動く自動車です。走行中に二酸化炭素や排気ガスを出さないため、地球温暖化対策や大気汚染防止につながるとともに、走行中の騒音が少ないなどのメリットがあります。

(※4) 海洋に生息する生物(プランクトン、海藻・海草、塩水性の湿原の植物など)によって吸収・捕捉される炭素です。

基本目標と基本施策



2050年将来像「自然と共生するゼロ・カーボン・アイランド かみじま」を達成するため、以下に示す6つの基本目標とそれに付随する施策の方向性を設定しました。

基本目標

基本施策

基本目標 1

地球温暖化対策の
基盤整備

- ① 地球温暖化対策に関する教育
- ② 情報共有、協働推進
- ③ 脱炭素経営の転換促進
- ④ ブルーカーボン・グリーンカーボンによる吸収源確保

基本目標 2

再生可能エネルギーの
導入促進

- ① 公共施設へ積極的な太陽光発電設備や蓄電池の導入促進
- ② 住宅や事業所等の建物の屋根に太陽光発電設備や蓄電池の導入促進
- ③ 再生可能エネルギー由来の電力の購入促進

基本目標 3

省エネルギーの推進

- ① 環境にやさしいライフスタイル・ビジネススタイルの推進
- ② 省エネ家電・省エネ設備の導入促進
- ③ 省エネ住宅、建築物への転換



基本目標 4

脱炭素交通の推進

- ① エコドライブの推進
- ② 次世代自動車の導入、船舶の省エネ・省CO₂化促進
- ③ 持続可能な交通環境の実現

基本目標 5

資源循環のまちづくり

- ① ごみの4Rの推進
- ② エネルギーの地産地消



基本目標 6

気候変動による適応策

- ① 緩和策と適応策
- ② 適応の範囲、対策分野
- ③ 気候変動による分野別影響
- ④ 将来的予測される影響と適応策の方針



自然と共生する
ゼロ・カーボン・
アイランド
かみじま



基本目標 1

地球温暖化対策の基盤整備

※主体別取組施策から抜粋

具体的な取組施策		町民	事業者
① 地球温暖化対策に関する教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化問題に関する情報を「広報かみじま」やホームページ、インターネット等で情報収集しましょう。 ● 地球温暖化問題に関するイベントや出前講座等に積極的に参加するなど環境学習に取り組みましょう。 	●	●
② 情報共有、協働推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化対策活動を行っている主体間(町民、事業者、関係団体等)で積極的に情報交換を行い、連携・協働して活動を進めていきましょう。 	●	●
③ 脱炭素経営の転換促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社を含め、サプライチェーン※1全体で脱炭素経営を目指しましょう。 ● CO₂の「見える化」を行うため、エネルギー消費量を把握しましょう。 ● CO₂削減目標を検討しましょう。 		●
④ ブルーカーボン・グリーンカーボン※2による吸収源確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 町や関係機関と連携・協力し、温室効果ガスの吸収源となる藻場創生に係る事業や森林・緑の保全活動へ積極的に参加しましょう。 ● 敷地内をはじめ、屋上や壁面等の緑化(グリーンカーテン※3)に取り組みましょう。 	●	●

基本目標 2

再生可能エネルギーの導入促進

※主体別取組施策から抜粋

具体的な取組施策		町民	事業者
① 住宅や事業所等の建物の屋根に太陽光発電設備や蓄電池の導入促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅・事務所の建替えや新築時には、太陽光発電設備や太陽熱利用設備の導入を検討しましょう。 	●	●
② 再生可能エネルギー由来の電力の購入促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギー由来の電力プランを検討しましょう。 	●	●



- (※1) 製品が消費者に届くまでの原料調達、製造、輸送等の一連の流れのことです。
- (※2) 陸上の森林、土壌などの生態系によって吸収・貯蓄される炭素のことです。
- (※3) ゴーヤやアサガオ等の植物を育てて日除けにすることです。体感温度の低下、緑被率の向上等に効果があります。
- (※4) 脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動で、二酸化炭素を減らす脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を組み合わせた言葉です。
- (※5) 住宅内のどこからどれだけ二酸化炭素が出ているかを分析し、平均的な家庭と比較することによって家のエコロジ度を判定する診断です。
- (※6) 専門家による家庭内の機器使用状況等の診断・アドバイスと再エネ提案によってエネルギー利用を最適化するサービスです。
- (※7) 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」で規定する特定機器を対象に、省エネルギー基準を設定する制度です。
- (※8) 天然ガス、石油、LPガス等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収するシステムです。
- (※9) 環境省による大気汚染対策の一環で、地球にやさしいエコな自動車運転方法(10種)を提唱した取組です。
- (※10) 4R: Refuse(いらぬものを断る)、Reduce(ごみを減らす)、Reuse(繰り返し使う)、Recycle(資源として再使用する)の4つの頭文字をとったものです。

基本目標 3

省エネルギーの推進

※主体別取組施策から抜粋

具体的な取組施策	町民	事業者
① 環境にやさしいライフスタイル・ビジネススタイルの推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 国民運動「デコ活^{*4}」に参画し、積極的に取り組みましょう。 ● 住宅等の「うちエコ診断^{*5}」を受診しましょう。 ● 工場・事業場等の「省エネ最適化診断^{*6}」を受診しましょう。 	● ●	● ●
② 省エネ家電・省エネ設備の導入促進 <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭のLED照明やトップランナー制度^{*7}のエアコン、冷蔵庫、高効率給湯器・燃料電池などの家電製品を購入しましょう。 ● 工場・事業場へLED照明や高効率空調・給湯、コージェネレーションシステム^{*8}等の導入や燃料転換を検討しましょう。 	●	●
③ 省エネ住宅、建築物への転換 <ul style="list-style-type: none"> ● 住宅や事業所など建物の窓へ断熱フィルムを貼るなど、断熱性能を高めましょう。 	●	●

基本目標 4

脱炭素交通の推進

※主体別取組施策から抜粋

具体的な取組施策	町民	事業者
① エコドライブの推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 「エコドライブ10^{*9}」を実践しましょう。 ● 移動する手段は、積極的に自転車を利用しましょう。 ● 宅配便の1回での受け取り、または宅配ボックスでの受け取りなどによる再配達の防止に努めましょう。 	●	●
② 次世代自動車の導入等 <ul style="list-style-type: none"> ● 自動車を買うし換える際には、次世代自動車を選択しましょう。 	●	●
③ 持続可能な交通環境の実現 <ul style="list-style-type: none"> ● 自家用車から町有バスの利用に乗り換えましょう。 	●	●

基本目標 5

資源循環のまちづくり

※主体別取組施策から抜粋

具体的な取組施策	町民	事業者
① ごみの4R^{*10}の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● マイボトル、マイバッグの利用、分別により容器包装プラスチック等のごみの削減を徹底しましょう。 ● 食品ロスの削減に取り組みましょう。 	●	●
② エネルギーの地産地消 <ul style="list-style-type: none"> ● 自宅や事業所で使用する電力調達の切り替えを検討しましょう。 	●	●

基本目標 6

気候変動による適応策

※主体別取組施策から抜粋

具体的な取組施策	町民	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動による影響等の情報を収集し、町の行う適応方針を理解しましょう。 	●	●

デコ活をはじめよう！

脱炭素につながる新しい豊かな暮らし



取組内容	CO ₂ 削減効果 (kg-CO ₂)	節約額 (年間)
ZEH住宅の購入	2,551	152,000円
太陽光発電設備の設置	920	53,000円
省エネ性能の高い住宅への引っ越し	1,131	94,000円
高効率給湯器の導入	70~526	6,000~35,000円
断熱リフォーム(窓・サッシなど)	1,131	94,000円
節水(節水シャワー・節水型トイレなど)	105	16,000円
LED等高効率照明の導入	27(2台交換)	3,000円
クールビズ・ウォームビズ	41	4,000円
冷蔵庫の買い替え	108	11,000円
エアコンの買い替え	70	7,000円
HEMSやIoT家電の活用	88	9,000円
電力排出係数の改善(環境により電気を選ぶ)	777	—
次世代自動車(EV、PHEV、HVなど)を選択	610	75,000円
自動車を保有する代わりにカーシェアを利用	491	149,000円
テレワークにより、通勤に伴う移動を削減する	840	61,000円
エコドライブの実施	117	9,000円
近距離通勤(5km未満)は自転車・徒歩通勤	162	12,000円
5km以上の通勤も月1日は公共交通機関に	35	—
マイボトル、マイバッグの利用、分別などにより容器包装プラスチック等のごみを削減する	29	4,000円

環境省「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後」より

環境にやさしい生活は家計の節約にもつながります。わたしたちの上島町と地球の未来のために、まずはできることから始めてみましょう。